

イベント報告

2022 年秋季大会 講演2

『CVC からみたスタートアップ風景』

井上 智子

本日は CVC の立場から見たスタートアップとの取り組み、連携活動についてお話をさせていただきたい。当社は、制御機器やヘルスケア、社会システムといった事業を営む会社であり、創業以来多数の発明も手がけてきた。これまでの事業展開ならびにスタートアップとの関わり背景には、当社創業者が 1970 年に国際未来学会で発表した SINIC 理論という未来予測理論がある。

それは、科学と技術と社会の間には円環論的な関係があり、異なる 2 つの方向から相互にインパクトを与えあっているもので、1 つの方向は新しい科学が新しい技術を生み、それが社会へのインパクトとなって社会の変貌を促すというもの。もう 1 つの方向は、逆に社会のニーズが新しい技術の開発を促し、それが新しい科学への期待となるというもので、この 2 つの方向が相関関係により、お互いが原因となり結果となって社会が発展していくという理論である。

その理論を受け継ぐ形で、当社のスタートアップ支援活動が構成され、CVC であるオムロンベンチャーズだけでなく、CVC 以外にオムロンとのシナジーを追求していくような共創活動を推進する部署、そしてシナジーの有無に関わらずベンチャーの事業開発支援を担当する部署の 3 つがある中で、投資活動においては投資先ベンチャーと市場創出を目指すことを考えている。長期的なテーマとして、クライメイトテックのようなカーボンニュートラルの実現、AI ロボティクスのようなデジタル化社会の実現、そして健康寿命の延伸や病気になる社会の実現といったヘルスケア領域の 3 つを掲げている。これらのテーマに対して VC への LP 出資、ベンチャーへの直接投資という投資活動ならびに事業開発支

援活動を通じて取り組んでいる。

最終的には、SINIC 理論でいうところのサイエンスと社会をつないでいくような存在として機能しながら、イノベーションをもっとイノベーションし、それらの社会実装を加速していきたいという思いで、さまざまな取り組みをこれからもしていきたいと考えている。

(文責・土屋 繼)

井上 智子

オムロン株式会社 グローバルコーポレートベンチャリング室 室長、オムロンベンチャーズ株式会社 代表取締役社長

米 NJ 生まれ、一橋大学経済学部卒、ペンシルベニア大学ウォートン校 MBA、東京女子医科大学早稲田大学共同大学院共同先端生命医科学専攻修士博士（生命医科学）、スタンフォード大学バイオデザインプログラムフェルティフェロー。新卒で東京三菱銀行（現三菱 UFJ 銀行）に入行し、投資会社勤務を経て産業革新機構入社。産業革新機構のもとで医療機器のベンチャーキャピタルの設立に携わり、ファンドの運営及び日本、シリコンバレーなどのシード～アーリーステージの医療機器ベンチャー投資に携わる。また、医療機器のイノベーターを育てるためのプログラムであるジャパン・バイオデザインプログラム（東京大学、大阪大学、東北大学）や筑波大学のグローバル医薬品・医療機器マネジメント講座のプログラム立ち上げから講師、メンター、ファシリテーターを務めるなど、多方面で活動。

2018 年 4 月よりオムロンの CVC 代表、2022 年 4 月にオムロン（株）にグローバルコーポレートベンチャリング室を立ち上げ、室長を兼務。